

国際機関及び各国政府で研究が進められている社会進歩及び幸福度の測定について

組織・国	OECD	国際連合	国連開発計画	韓国	タイ	ブータン	豪州	欧州委員会	フランス	ドイツ
プロジェクト名	社会進歩計測に関するグローバル・プロジェクト	ミレニアム開発目標	人間開発指標 (Human Development Index)	社会指標	グリーン・幸福度指標	国民総幸福量 (Gross National Happiness)	豪州の進歩の測定	GDP and beyond	経済パフォーマンス及び社会進歩の計測に関する委員会 (通称、ステイグリッツ委員会)	社会報告書
検討開始年	2007	2000	1990	1975	2007	2005	2002	2007	2008	2008
検討主体	OECD、国連等	国連、各国政府	マブール・ハク氏 (パキスタンの経済学者)	韓国国家統計局、韓国開発研究院	国家経済開発委員会	国立ブータン研究センター	豪州国家統計庁	環境総局、統計局	国立統計経済研究所、経済研究センター (事務局)	国家統計庁・社会科学基盤機構等
目的	経済、社会、環境問題を勘案して社会進歩を包括的に見る視点の開発	絶対的貧困の半減など2015年までに取組まなければならない必要な優先分野の提示	各国の人間開発の度合いを測ること	社会発展政策の企画立案	人々の参画を促し、幸福度を高める発展を促進すること	社会の方向性を示すとともに政策に活用すること	豪州における生活が改善しているかを国民が評価するための手助け	社会進歩、富、幸福の計測の向上	指標としてのGDPの限界、付加的な情報の種類の検討、代替指標の実現可能性の評価を行うこと	政策決定の基礎および国民への情報提供
範囲	社会、経済、環境	健康、教育、環境、援助	長寿、知識、生活水準	経済、社会、環境	個人、地域、経済システム、環境、統治機構	所得、健康、社会、環境	社会、経済、環境	社会、経済、環境	経済、生活の質、持続可能性・環境	生活の質と社会変化
指標の策定状況	検討中	公表済	公表済	公表済	公表済	公表済	公表済	検討中	検討中	公表済
指標主要区分	9分野(案)	8分野	3分野	13分野	6分野	9分野	17分野	5分野	-	15分野
指標数	検討中	48	4	487	30	72	69	(案)47	-	NA
うち主観的幸福度	検討事項	×	×	○(満足度)	×	○	×	検討事項	検討事項	○
1つの指標への統合化	検討事項	×	○	×(検討中)	○	○	×	-	-	×
その他参考情報	<ul style="list-style-type: none"> ・2007年世界フォーラムにて採択した「イスタンブール宣言」にもとづき設置 ・2012年秋にインドにて世界フォーラムを開催予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・2001年9月に国連総会で決定された「国連ミレニアム宣言の実行に向けたロードマップ」によって提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・平均寿命、教育、GDPに関して最大値と最小値を設定して0~1になるように側面指数を求めて、3指数の平均値として算出。なお、2010年からは不平等調整済人間開発指標 (IHDI) を公表 (平等であればIHDIとHDIは同値を取る)。 ・人間開発計画はこれ他、人間貧困指数 (HPI)、多面的貧困指標 (MPI)、ジェンダー開発指数 (GDI)、ジェンダー・エンパワメント指数 (GEM)、ジェンダー不平等指標 (GII) を公表している 	<ul style="list-style-type: none"> ・1987年、1995年、2004年に枠組みを大きく変更 ・指標化には社会統計調査 (Social Statistics Survey) を活用 (標本数3万世帯) 	<ul style="list-style-type: none"> ・第10次開発計画の目標である「幸せで、平和で、持続可能な発展」を計測する目的で策定された。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の幸福は国の発展の目標であるという前国王の考えを反映したもの。2006,7年のパイロットテストの後、2008年に第1回の結果公表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10年前との比較で改善しているか否かを分かりやすい記号で表示 ・指標は主要指標、補足指標、参考指標に分かれている (注: 上記指標数は主要指標と補足指標の合計) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年までの5つの行動計画を決定。幸福度指標化作業は1番目の行動計画の下で検討されている。 1) 環境指標、社会指標によるGDPの補完情報提供 2) 政策決定のためのほぼリアルタイムの情報提供 3) 所得分配と不平等に関するより正確な報告 4) 欧州版持続可能性スコアボードの開発 5) 国民経済計算の環境、社会問題への拡張 	<ul style="list-style-type: none"> 1) 生産より所得・消費を重視すべき 2) 所得、消費、富の分配に重点をおくべき 3) 生活の質の指標は包括的に不平等性を評価すべき 4) 主観的・客観的幸福度の計測は生活の質に関する重要な情報であり、調査に質問を組み込むべき 5) 持続可能性の評価には適切な指標群が必要 などの提言を行った 	<ul style="list-style-type: none"> ・1999年から続いていたデータブックを社会変化を提示する報告書として衣替え

(備考) 国際機関又は政府機関によるものに限定している (非営利機関による取組みは含まない)。また、本表は現在、入手可能な情報に基づき作成したものであり、社会進歩または幸福度に関する指標化の取組みを網羅的に記載したものではない。

組織・国	フィンランド	アイルランド	オランダ	イギリス	アメリカ	メキシコ
プロジェクト名	フィンディケーター (Findicator)	アイルランドの進歩 の計測	生活状況指標 (Life Situation Index)	国民幸福度計測 (Measures of National Well-being)	主要国民指標 (Key National Indicator System)	社会進歩の計測
検討開始年	2007	2003	1974	2010	2003	2009
検討主体	首相府・フィンランド 統計局	アイルランド中央統計 局	オランダ社会研究機 構(SCP)	英国国家統計局	主要国民指標委員 会(2008年主要国民 指標法に基づき設 置)	科学技術諮問フォー ラム
目的	社会的発展に関する 情報提供、実証に基 づく政策立案の支援	アイルランドにおける 経済、社会、環境状 況の分析の概要提 示	社会の発展状況を把 握し、描写すること。 特に社会的不利益を 防ぎ、不利益が存在 するならば、解決す る社会政策に生かす こと。	GDPなどの経済指標 が示す以上に「社会 がどうなっているか」 についての全体像を 提供すること	戦略の企画立案、国 民への情報提供(何 が上手くいって、何が 上手くいっていない か、誰が影響を受け ているか等)	OECDの取組みの国 内への伝達 科学的知見
範囲	社会的発展	経済、技術革新、社 会、環境	生活環境(住居、健 康、社会参加など)	経済業績、社会進 歩、環境への影響	国の発展、生活水 準、生活の質、持続 可能性	-
指標の策定状況	公表済	公表済	公表済	検討中	検討中	×
指標主要区分	12分野(テーマ別)ま たは10分野(政策分 野別)	10分野	8分野	9分野(案)	-	-
指標数	100	107	19	検討中	-	-
うち主観的幸福度	×	×	○	検討事項	-	-
1つの指標への統合化	×	×	○	選択肢として検討	-	-
その他参考情報	・個別指標は最新 データ公表時に自動 的にアップデート可 能(ウェブ版のみ存 在) ・データは表、グラ フ、テキスト形式で ダウンロード可能	・EU諸国との比較を 掲載	・1970年代の社会指 標運動の中で開始さ れたもの。 ・主観的指標として社 会的孤立指標(6項 目)が1997年から 入っている	・2011年2月15日ま でオンラインを含めて 意見募集中。	・2009～18年の予算 措置(総額7,750万ド ル)が主要国民指標 法で決定されている	・OECD地域フォー ラムを2011年5月に 主催。

(備考)国際機関又は政府様

韓国社会指標

分野	主な指標
1 人口	総人口、将来推計人口、高齢者人口、高齢化率、平均寿命
2 家庭家族	世帯構成、平均世帯数、結婚、離婚、第一子の出産年齢
3 所得と消費	国民総所得(GNI)、国内総生産(GDP)、地域内総生産、租税負担率
4 労働	産業別週労働時間、月平均賃金、障害者の義務雇用状況、労働環境への満足度
5 教育	就学率、進学率、学校の級別生徒数、学生の学校生活の満足度
6 健康	学生の平均身長、主要死亡原因、医療機関/医療従業者数の現状、主要な慢性疾患の有病率
7 住居と交通	住宅建築実績、都市の住宅売買と住宅リース価格指数、自動車の登録台数
8 情報と通信	一般電話、携帯電話、超高速インターネット加入者数、電子商取引規模、インターネットショッピングの経験
9 環境	主要都市のオゾン汚染度、海洋汚染事故の状況、森林面積、環境汚染防止の努力
10 福祉	健康保険の負担額、基礎生活保障や医療給与の受給者、要保護児童発生状況
11 文化と余暇	新刊書籍の発行、映画の上映本数や客観数
12 安全	交通事故の状況、犯罪発生件数、外国人犯罪者の割合
13 政府と社会参加	総公務員数(定員)、政府の歳出の機能別の構成、地方財政の自立度

タイ・グリーン幸福度指標

1. 健康	2. 暖かい家庭	3. 地域の力の強化	4. 経済力と公正さ	5. 環境と生態系保護	6. 良い統治による民主社会
心身の健康 健康 寿命 知性 道徳的行動 学習能力 学習の質	家族の役割 愛情と養護 子供や高齢者への 尊敬 家族のつながり 家族を築く意思 問題解決 個人の依存性 所得 住居 社会基盤	自律 地域組織 解決対応の学習 支援の得られる地域社会 地域福祉 調和と相互援助	雇用 雇用 十分な所得 仕事の安全性確保 経済の強さ 安定的な経済成長 平等性 公正な分配	生活と財産の安全 訴訟件数(特に犯 罪・薬物)、 良好な質的環境 水、大気、土壌の汚 染、ゴミ 生態系 天然資源の確保	民主主義の理解 義務と規制 権利 開発への参画 良い統治 公共、民間サービス における良い統治 集中排除 調和の取れた社会 人種、宗教、文化 の差の許容

ブータン 国民総幸福量

次元	構成指標
心理的幸福	<ul style="list-style-type: none"> ● 一般心理的ストレス指標 ● 感情的均衡指標 (利己的感情、嫉妬、自死念慮など) ● 精神指標 (祈り、瞑想の回数など)
環境多様性	<ul style="list-style-type: none"> ● 生態劣化指標 (川や土壌が汚染していないか) ● 生態知識指標 (地域の植物や動物の名前を知っているか) ● 植林指標 (植林したか)
健康	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康状態指標 (健康自己評価、過去1ヶ月で健康と感じた日数、など) ● 健康知識指標 (AIDSを知っているか、母乳を与える期間を知っているかなど) ● 健康障害指標 (最寄りの医療機関までの距離)
教育	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育到達指標 (最終学歴、識字率) ● ゾンカ語指標 ● 民話歴史知識指標 (民話の知識と理解力の程度)
文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 方言利用指標 ● 伝統スポーツ指標 (過去12ヶ月でどれだけ伝統スポーツをしたか) ● コミュニティの祭り指標 ● 職人技術指標 ● 相互作用指標 ● 価値伝承指標 (子どもにしつけを教えることの価値、貧富などに偏見を持たない価値を教えることの重要性の認識) ● 基本教訓指標 (殺人、窃盗は正当化されるか)
生活水準	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活水準指標 (家計所得、日常生活への所得の充足度、食べ物の充足度、一人当たり部屋数、など) ● 逆境指標 (地域の祭りへの貢献度、家の修理の延期の経験)
時間利用	<ul style="list-style-type: none"> ● 時間指標 (睡眠時間、総労働時間)
コミュニティの活性	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族指標 (家族はお互いに助け合っているか、など) ● 安全指標 (犯罪の被害者になったか、など) ● 相互依存指標 (コミュニティで相互に作業を手伝ったか、など) ● コミュニティ信頼指標 (隣人の信頼度、など) ● 社会性指標 (友達とどれくらい会ったか、など) ● 社会的サポート指標 ● 親族指標 (親族が同じコミュニティに住んでいるか)
統治	<ul style="list-style-type: none"> ● 政府パフォーマンス指標 (中央政府が貧富の差をどれくらい埋められたか、など) ● 自由度指標 (言論の自由、差別を感じるか、など) ● 制度への信頼指標 (中央政府、メディアなどへの信頼)

オーストラリア Measures of Australia's Progress, 2010

(補完指標をさらに説明するfurther informationについては省略)

社会

ヘッドライン次元	ヘッドライン進歩指標	補完進歩指標
健康	平均寿命	幼児死亡率 自己評価健康 避けることが可能な死
教育訓練	職業訓練もしくはより高等な教育資格の保有の25歳-64歳人口。	15-19歳人口の教育参加率 中等教育在籍率
仕事	失業率	長期失業率 失業率 労働力過小稼働率(失業率に低雇用率を加えたもの) 拡張労働力過小稼働率(さらに、非労働力人口のうち特定の人の率を加えたもの) 労働量過小稼働率(労働時間で評価した労働の稼働率)
犯罪	対個人犯罪の被害者 家庭内犯罪の被害者	対個人犯罪被害者-窃盗 対個人犯罪被害者-性的暴行 家庭内犯罪の被害者-他の家庭内犯罪 家庭内で一人で過ごす時の安心感 公共の場で一人で過ごす時の安心感
家族、コミュニティ、そして社会的結束	なし	雇用されている親がいない子供の割合 ボランティアをする人の割合 自殺率 薬物に起因する死亡率
民主主義、統治、市民性	なし	オーストラリア市民で海外で生まれたオーストラリア居住者の割合 オーストラリア市民権を付与された人 連邦選挙における無効投票の割合 連邦議会選挙の候補者数 連邦議員に占める女性の割合 アボリジニー・トレス海峡島民が連邦議会に占める割合 豪州証券取引所主要上場企業(ASX200)の上級幹部に占める女性の割合 豪州証券取引所主要上場企業(ASX200)の取締役員に占める女性の割合 国民総所得に占めるODAの比率

経済

ヘッドライン次元	ヘッドライン進歩指標	補完進歩指標
国民所得	一人当たり実質国民可処分所得	一人当たり最終消費支出 国民純貯蓄率(対GDP)
国富	一人当たり実質国民純資産	一人当たり実質国民資産、および負債 一人当たり実質純対外債務
家計の経済的福祉	中低所得層の平均実質等価週間家計可処分所得	家計部門総純資産 家計純資産
住居	低所得者向け借家の低負担度	家賃滞納のリスクに直面する低所得者 自宅保有率 中所得家計に対する低負担住居の割合
生産性	多要素生産性	なし

環境

ヘッドライン次元	ヘッドライン進歩指標	補完進歩指標
生物多様性	絶滅危惧動物相種	絶滅危惧植物相種 オーストラリアにおける保護地域総面積比率 絶滅危惧生態学的群集
土地	なし	年間森林転換、逆洗面積 原生林面積の変化
陸水	なし	水純消費量 一人当たり水消費量 農業水利用 一人当たり水再利用量
海洋、河口	なし	乱獲された、もしくは乱獲にさらされている魚群 国営海洋公園および保護区域
大気	なし	一人当たり純温暖化ガス排出量 部門別温暖化ガス純排出量 GDP一単位当たり温暖化ガス純排出量 再生可能資源からのエネルギー生産量
廃棄物	なし	総廃棄物量 一人当たり廃棄物量 埋め立てられた総廃棄物量 廃棄物転用率 廃棄物物排出量

補完

補完次元	補完的進歩指標	他の指標
文化と余暇	スポーツおよび身体的レクリエーションへの参加率 文化的場所やイベントへの参加 スポーツイベントへの参加	レクリエーションや余暇に当てた時間 文化貿易 スポーツ、文化へボランティア
通信	世帯のインターネットへのアクセス 世帯のブロードバンドへのアクセス 世帯のコンピュータへのアクセス	オンライン・ショッピング ソーシャル・ネットワーク インターネット・セキュリティ
運輸	交通事故死 1000人当たりの乗用車数	燃料消費量、排出量 鉄道輸送、海上輸送、航空輸送、貨物輸送
インフレーション	消費者物価指数 国内最終需要価格指数	最終消費支出 総固定資本形成
国際競争力、開放性	実質単位労働コスト 貿易加重指数 輸入対GDP比 オーストラリア企業に対する外人所有率	なし

欧州連合統計局

幸福の主要因 (Core set of WB drivers)

次元/構成体	変数		主観/客観		動学モデルにおける位置付け	情報源	地理的範囲、時系列データの入手可能性	
	元の様式	提案する様式の変更	質的側面	測定面			理論上の国数	実際の国数(2006)
生理学的要求: 所得と住宅								
所得水準	等価可処分所得中央値	-	客観	主観	外部	SILC	ECHP:1994: EU12, 1995:13, 1996:14, 1997-2001:15, SILC(2004年以降)*, 全 EU MS (EU(25/27)+他のいくつかの国々)	27
所得への対処	「快適に生活」から「非常に困難」まで、4件法で評価した家計の所得に対する感じ方、	SILC 2006-代替: 収支をバランスさせることの困難さを非常に困難から非常に簡単まで6段階で評価	主観	主観	外部	Eur. Soc. Survey	2001(第1回):22, 2004:26, 2006:25, 2008:30	19
住居の質	雨漏りする屋根/湿った壁、床、基礎、もしくは窓枠、床の腐朽		客観	主観	外部	SILC	ECHP:1994: EU12, 1995:13, 1996:14, 1997-2001:15, SILC(2004年以降)*, 全 EU MS (EU(25/27)+他のいくつかの国々)	24
	過密率: 次に上げる基準が満たされていない場合、過密とみなす--世帯に一つの部屋、--カップルごとに追加の部屋、--18歳以上の場合、世帯員一名ごとに追加の部屋、--12歳から17歳までの同性の場合、二名ごとに追加の部屋、--12歳から17歳までの異性の場合、一名ごとに追加の部屋、--12歳以下の者二名ごとに追加の部屋、		客観	主観	外部	SILC	SILC(2004年以降)*, 全 EU MS (EU(25/27)+他のいくつかの国々)	25
	住居に関する全般的な満足度		主観	主観	外部	SILC	ECHP:1994: EU12, 1995:13, 1996:14, 1997-2001:15, SILC(2007のみ):EU27	25
生理学的要求: 健康								
身体的健康	非常に悪いから非常によいまでの5件法で評価した場合、あなたの健康はどうですか？	あなたの健康は一般的には同世代の人と比べてどうですか？	客観	主観	健康	SILC	ECHP:1994: EU12, 1995:13, 1996:14, 1997-2001:15, SILC(2004年以降)*, 全 EU MS (EU(25/27)+他のいくつかの国々)	23
	BMI(体格指数)	-	客観	客観?	健康	Eurostat(基準統合のされていない国別の健康情報サービス)	1999-2003: EU27 (但し、毎年ではない。国ごとに調査年が異なる)	26

SILC: The European Union Statistics on Income and Living Conditions, ECHP: The European Community Household Panel, EU MS: European Union Member States
 Eur.Soc. Survey: The European Social Survey

次元/構成体	変数		主観/客観		動学モデルにおける位置付け	情報源	地理的範囲、時系列データの入手可能性	
	元の様式	提案する様式の変更	質的側面	測定面			理論上の国数	実際の国数(2006)
心身の健康	疾病、障害、養護、心理的課題などにより日常生活が阻害	SILC 2006-代替: 制約されていないから強く制約されているまでの3件法で評価した健康問題による活動の制約	客観・主観	主観	機能	Eur. Soc. Survey	2001(第1回):22, 2004:26, 2006:25, 2008:30	24
メンタルヘルス	精神罹患指標	CES-D(疫学的うつ病評価尺度)もしくはDASS21-質問から選択。	客観	客観	感情	DASS21: 英国家計パネル調査	NA	NA
活力	活力の質問: 過去一週間に多くのエネルギーを感じた時間がどれくらいありましたか?	-	主観	主観	資源?	Eur. Soc. Survey	2001(第1回):22, 2004:26, 2006:25, 2008:30	18
騒音	近隣もしくは通り(交通、業務、工場その他)からの騒音を経験していますか。はい、いいえ。	-	客観	主観	外部	SILC	ECHP:1994: EU12, 1995:13, 1996:14, 1997-2001:15, SILC(2004年以降)*, 全 EU MS (EU(25/27)+他のいくつかの国々)	25
生理学的要求: 健康と所得に関する基本的権利								
所得不平等	所得4分位シェア比率	-	客観	主観	外部	Eurostat(SILCデータに基づく)	ECHP:1994: EU12, 1995:13, 1996:14, 1997-2001:15, SILC(2007のみ):EU27	27
医療サービスへのアクセス	健康診断や治療の未充足	同時: 健康診断もしくは歯科診断、治療の未充足	客観	主観	外部	SILC	ECHP:1994: EU12, 1995:13, 1996:14, 1997-2001:15, SILC(2004年以降)*, 全 EU MS (EU(25/27)+他のいくつかの国々)	24
	歯科診断や治療の未充足		客観	主観	外部	SILC		24
社会的セーフティネットへの信頼/アクセス	必要なときに必要なセーフティーネットを社会保障システムがあなたに提供するとどの程度信じていますか。	-	主観	主観	外部	NA	NA	NA
安全安心: 身体的政治的安全								
身体的安全	暗くなってからの地域における一人歩きの際に、安全と感じる度合い(とても安全からとても危険の4件法)	暗くなってから一人歩きする際、どの程度安全であると感じますか?(回答者が、1)自身の近隣について、2)自身の職場環境・地域について、3)自身が余暇を過ごす地域について、答えていることを確認すること)	主観	主観	外部	Eur. Soc. Survey	2001(第1回):22, 2004:26, 2006:25, 2008:30	23
	いじめやハラスメント(言葉、もしくは身体への暴力)を自宅、職場で受けていますか。	-	客観	主観	外部	NA	NA	NA
	QS:「あなたもしくはあなたの世帯の一員が過去5年間に窃盗や暴行の被害者になったことがありますか。」	-	客観	主観	外部	Eur. Soc. Survey	2001(第1回):22, 2004:26, 2006:25, 2008:30	23

次元/構成体	変数		主観/客観		動学モデルにおける位置付け	情報源	地理的範囲、時系列データの入手可能性	
	元の様式	提案する様式の変更	質的側面	測定面			理論上の国数	実際の国数(2006)
政治的安全	まったく信用していないから完全に信用しているまで、11件法で評価した司法制度への信頼	-	主観	主観	外部	Eur. Soc. Survey	2002(第1回):22, 2004:26, 2006:25, 2008:30	23
	まったく信用していないから完全に信用しているまで、11件法で評価した司法制度への信頼	-	主観	主観	外部	Eur. Soc. Survey	2003(第1回):22, 2004:26, 2006:25, 2008:30	23
	まったく信用していないから完全に信用しているまで、11件法で評価した司法制度への信頼	-	主観	主観	外部	Eur. Soc. Survey	2004(第1回):22, 2004:26, 2006:25, 2008:30	23
安全安心:教育や仕事の安心を含む経済的安心								
債務	(選択:さらに調査することを勧告)		客観	主観/客観	外部			
学校教育	教育への満足度(質問:最近の自身の教育についてどの程度満足しているといえますか?1(低い)から10(高い)で評価)。	-	主観	主観	資源	Eurofound(2003,2007のEQLSIに基づく)	2003年、2007年:EU27+CC	2003年28、2007年31
	二一ト指標:15歳から19歳で教育も仕事も訓練も受けていない者の割合		客観	客観	機能	英国のみ	-	-
生涯教育	このアンケート調査が行われる前の4週間に、教育もしくは訓練を受けましたか?	過去12ヶ月間の間に、何らかの学校教育もしくは学校以外の教育、訓練を受けましたか?	客観	主観	機能	Eurostat, LFS	年次:1992年以降EU12;1995年以降EU15;2000年以降EU25/27	(T3にはない)
経済的安心	仕事を失う可能性	-	主観	主観	資源	Eurofound	2003年のみ:EU27	27
安全安心:物理的環境								
大気汚染	大気汚染水準	1)地表水準のオゾン、2)粒子状物質、に関するマイクロレベル(GIS-)データ	客観	客観	外部	Eurostat(環境局)		
ごみ、その他	地域で交通や産業による汚染、汚れ、ごみや他の環境問題に直面しましたか?はい、いいえ。	あなたが住む地域で汚れ、ごみや他の環境問題に直面しましたか?はい、いいえ。	客観	主観	外部	SILC	(T3にはない)	(T3にはない)
緑化/レクリエーション空間	緑地への十分なアクセス	緑地、きれいな海水浴場、もしくは他のレクリエーション空間への十分なアクセス	客観/主観	主観	外部	NA	NA	NA
幸福度に影響する有毒物質	あなたや親類が消費する食事は健康的なものであると考えますか。	-	客観	主観	外部	NA	NA	
物理的環境の一般的評価	環境に関し、全てのことを考慮して、非常に幸せであるからまったく幸せでないまでの4件法で評価すると、どの程度幸せですか。	自身が暮らし働く(学ぶ)身の回りの環境(自然やインフラ)に関し、将来のあなたの幸福についてどの程度自信を持っていますか。	主観	主観	資源	EVS	(T3にはない)	(T3にはない)
自治や自由のために個別に価値のある活動								
全ての活動	仕事または主たる活動への満足	-	主観	主観	機能	ECHP	ECHP:1994:EU12, 1995:13,1996:14,1997-2001:15, SILCではすでに集められていないので、再び入れるように。	(T3にはない)
仕事:失業	失業率	-	客観	客観	外部	ILO	1981-現在(200以上の国々)	27

次元/構成体	変数		主観/客観		動学モデルにおける位置付け	情報源	地理的範囲、時系列データの入手可能性	
	元の様式	提案する様式の変更	質的側面	測定面			理論上の国数	実際の国数(2006)
仕事:雇用者	主たるおよび他の仕事(残業含む)に従事した一週間当たりの時間	-	客観	主観	機能	SILC	ECHP:1994: EU12, 1995:13,1996:14,1997-2001:15, SILC(yearly from 2004 onwards)*, all EU MS (EU(25/27)+some other countries).	24
自由	本当に楽しいと思うことをするときにはほとんどない	-	客観	主観	機能	Eur. Soc. Survey	第3回(2006年)のみ:EU25	19
	自分の人生を自由に決定できる	-	主観	主観	機能	Eur. Soc. Survey	第3回(2006年)のみ:EU25	19
関係度-所属:社会との交流								
支持的関係	親密で個人的なことを話せる人がいますか?	-	客観	主観	機能	Eur. Soc. Survey	2001(第1回):22, 2004:26, 2006:25, 2008:30	23
	少なくとも4回のうち3回は家族から支援を得る18歳以上の人の割合	-	客観	主観	機能	Eur. Soc. Survey(EQLS EurLIFE)	2003年のみ	(T3にはない)
	自分の人生には自分のことを考えてくれる人がいる	-	主観	主観	機能	Eur. Soc. Survey	2003年のみ:EU25	19
人と行う活動	QS:「社会的に友人や親戚、職場の同僚と会うことはどの程度の頻度でありますか。」	-	客観	主観	機能	Eur. Soc. Survey	2001(第1回):22, 2004:26, 2006:25, 2008:30	(T3にはない)
	社会的生活に関する満足	-	主観	主観	機能	Eurobarometer	1995:EU15,2004:EU27	27
人のために行う活動	ボランティアやチャリティの組織の仕事にどの程度の頻度で取り組んでいますか。	-	客観	主観	機能	Eur. Soc. Survey	2001:2、2006:25,(第1回、第3回のみ)	19
社会関係資本	まったく同意しないから強く同意するまで、5件法で評価した社会から取り残されている感じ。	-	主観	主観	外部	Eurobarometer(ESSI)	2001年のみ:EU15	15
	ほとんどの人は信頼できる	-	主観	主観	外部	Eur. Soc. Surveyもしくは、世界価値観調査	2001(第1回):22, 2004:26, 2006:25, 2008:30	23
関係度-所属:基本的権利と社会、社会的水準								
機会の平等	差別されているグループに属しますか?	何らかの理由により社会に	主観	主観	外部	Eur. Soc. Survey	2001(第1回):22, 2004:26, 2006:25, 2008:30	23
能力と自尊心								
意味と目的	自分が人生で行うことは貴重であり価値がある	-	主観	主観	機能	Eur. Soc. Survey	2003年のみ:EU25	19
自尊心	時折自分は失敗であると感じることがある	-	主観	主観	資源	Eur. Soc. Survey	2003年のみ:EU25	19

追加分析変数

概念計測化	変数 元の様式	主観/客観		動学モデル における位 置付け	情報源	地理的範囲、時系列データの入手可能性		
		質的側面	測定面			理論上の国数	実際の国 数(2006)	
生理学的要求:所得と住宅								
	ジニ係数	客観	客観	外部	Eurostat(SILC データに基づ く)	ECHP:1994: EU12, 1995:13,1996:14,1997-2001:15, SILC(2004年以降)*, 全 EU MS (EU(25/27)+他のいくつかの国々)	27	
生理学的要求:健康								
	喫煙率、アルコール消費量	客観	主観?	機能	Eurostat(基準 統合のされて いない国別の 健康情報 サービス)	1999-2003: EU27 (但し、毎年で はない。国ごとに調査年が異なる)	26	
	健康的な食事、栄養摂取	客観	主観?	機能	NA	NA	NA	
	十分な運動	客観	主観	機能	NA	NA	NA	
	自殺率	客観	客観	機能	Eurostat(基準 統合のされて いない国別の 健康情報 サービス)	1995-2006年 国ごとにデータギャ	27	
安全安心:教育や仕事の安心を含む経済的安心								
学歴率(国際教育 標準水準)	年齢別の低学歴者の割合	客観	主観	資源	Eurostat, LFS	年次: 1992年以降EU12; 1995年 以降EU15; 2000年以降EU25/27	27	
	後期中等教育学歴(20-24歳):「卒業まで達した最高の学歴、もしくは訓練(15歳以上に対する質問)」	客観	主観	資源	Eurostat, LFS	年次: 1992年以降EU12; 1995年 以降EU15; 2000年以降EU25/27	27	
自治や自由のために個別に価値のある活動								
保育システムの 普及率、利用可 能性	3歳以下の子供数に対する保育施設数	客観	客観	外部	NA	NA	NA	
楽観主義								
	QS:「現状の有り様は、世界の将来について希望を持つことが難しいと思える」+「次の文に対する合意「自分自身将来については常に楽観的である」	主観	主観	資源	Eur. Soc. Survey			
将来/楽観主義 に対する感じ方	将来の社会への楽観主義、人生はよくなる、もしくは悪くなる(本項目ではなく、成果指標に対する文脈変数として追加される)	主観	主観	資源	CASP質問を 修正			

CASP: Critical Appraisal Skills Programme

米国 The Key National Indicators 0.5 として提案された情報分野と開発段階

USA Series 0.5: Key Information Areas

情報分野 開発段階	経済	社会	環境
先進	<u>マクロ経済</u>	教育 健康 犯罪 <u>社会的サポート</u>	
開発途上		<u>コミュニティ</u> 統治	<u>生態</u>
形成期	持続可能性 透明性	持続可能性 透明性 安全	持続可能性

フランス

幸福を図るための次元として、スティグリッツ委員会報告書上げられたのは以下のとおり。主観的な次元だけでなく、客観的な次元も重要であるとしている。

- 1) 物質的生活水準（所得、消費、および富）
- 2) 健康
- 3) 教育
- 4) 仕事を含む個人的活動
- 5) 政治的発言力と統治
- 6) 社会的つながりと関係
- 7) 環境（現在および将来）
- 8) 安全安心（経済的および身体的）

英国

現在作成のためのアンケート調査で選択肢にあげられている幸福に関わる領域。

- 1) 所得と富
- 2) 仕事の満足と経済的安定
- 3) 地域や、国家的問題への発言力
- 4) 友人、親戚との良好なつながり
- 5) 環境の現在、将来の状態)
- 6) 犯罪
- 7) 健康
- 8) 教育訓練
- 9) 介護やボランティアを含む個人的かつ文化活動
- 10) その他

参考ウェブサイト

アメリカ : State of the USA

<http://www.stateoftheusa.org/>

オーストラリア : Australian Bureau of Statistics

<http://www.abs.gov.au/websitedbs/D3310114.nsf/home/home?opendocument>

フランス : The Commission on the Measurement of Economic Performance and Social Progress

<http://www.stiglitz-sen-fitoussi.fr/en/index.htm>

ブータン : The Center for the Bhutan Studies

<http://www.bhutanstudies.org.bt/>

英国 : 国家統計局

<http://www.statistics.gov.uk/default.asp>

EU : Beyond GDP

<http://www.beyond-gdp.eu/news.html>